

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

エア・ウォーター株式会社 広島ガスセンター
エア・ウォーター株式会社 広島第2ガスセンター

(2) 事業所の所在地

広島県東広島市吉川工業団地5679番地1
広島県東広島市吉川工業団地7-10

(3) 業種

圧縮・液化ガス製造業

2 計画の期間

本計画の期間は、2017年度を基準年度とし、2018年度の1年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度実排出量 (a)	目標年度 上段：見込量 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：実排出量(d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度
エネルギー起源CO ₂							
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
温室効果ガス実排出量総計							
温室効果ガスみなし排出量							
実績に対する自己評価							

※ 削減率(c) = ((b)-(a))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

$$\text{エネルギー消費原単位} = \text{エネルギー使用量(kl)} / \text{製品供給量(kNm3)}$$

温室効果ガスの種類	基準年度の実績 (a)	目標年度 上段：目標 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績(d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	1427 2017年度	2018年度	2018年度				
エネルギー起源CO ₂							
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
温室効果ガス排出量総計							
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)	0.0607	0.0601	0.0639				
		1.0	-5.3				
実績に対する自己評価	客先需要の増減がプラント運転効率に影響しやすく、2018年度には豪雨災害による電力会社の計画外停電リスクの発生や、客先工場拡張によるガス需要の増加に対応し、別の拠点の子備プラントを稼働させたことで、広島ガスセンターとしては供給量の余剰が増え原単位が前年比増となった。状況に即しプラント運転効率の悪化を最小限とする取組みを継続し、また新プラント計画には高効率・大型プラント化を検討し、全社で中長期的な電力原単位低減を目指している。						

※ 削減率(c) = ((b)-(a))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	(広島ガスセンター・広島第2ガスセンター) エネルギー消費原単位の低減	基準(2017)年度比での2018年度実績 ・エネルギー消費原単位：5.3%増加	<ul style="list-style-type: none"> ・プラント適正運転 (随時：供給量に対する消費電力の調整) ・大型圧縮機の吸込フィルター清掃または交換 (年毎：圧損低減) ・送風機の駆動ベルト増張または交換 (月毎：機械損の低減) ・冷却水ポンプ、冷却塔ファンの余剰運転停止 (冬季随時) ・自社生産液化窒素の有効活用によるエネルギー原単位の改善活動 ・事務室、不要照明、冷暖房、事務機器の適正管理および不要時停止
2	(会社としての取組み) エネルギー消費原単位の低減	—	<ul style="list-style-type: none"> ・新ガスセンター計画については高効率・大型プラント化に向けた検討を進め、全社で中長期的な電力原単位低減を目指している。
3			

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み (環境価値の活用等)

	種類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	ガスセンター5S活動	—	1ヶ月毎以内での実施を継続
2	環境ISO活動	環境マネジメントシステムの定着化	環境マネジメントプログラムの作成、実行
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。